

目次

- | | | | |
|------|--|----|---------------------|
| P1-2 | 2024年度企画展「重監房廃止。しかし、その先は？」開催 | P4 | 2024年度 来館者統計 |
| P2-3 | 重監房資料館では、人権啓発イベントへの講師派遣、啓発DVD・パネルの貸出を承ります。 | P4 | お知らせ |
| P3 | 写真家黒崎彰氏作品譲渡、購入報告 | P4 | お客様の声（来館者アンケートより抜粋） |
| | | P4 | ご利用案内・アクセス |

2024年度企画展「重監房廃止。しかし、その先は？」開催

本展は、重監房廃止後の問題について皆さんと考える場にしたいと思います。重監房の正式名称は特別病室ですが、実質は所長らの管理運営する園専用刑務所のような施設でした。非人道的な処遇のために収監中や出獄後に亡くなった人は23名にのぼります。戦後は日本国憲法が施行され、さすがに廃止された、とされています。しかし、本当に廃止されたのでしょうか。重監房廃止で「特別病室」問題は解決したと言えるのでしょうか。当館には「重監房が廃止されて良かった」「こういう施設があったことを忘れてはいけない」という感想が寄せられます。実にその通りです。しかし、もう一歩その先を、本展では深堀りしたいのです。

戦後、特別病室を「甚だしい違法であり、かつ人権蹂躪である」とみなした議員が国会で実態の調査を求め、1947年10月に重監房の運用は廃止されました。廃止に至るまでの「特別病室」事件を通して、ハンセン病政策の隔離撤廃を求める当事者の運動は大きく前進し、療養所の枠を超えた自治会の全国組織「全国国立らい療養所患者協議会」が誕生しました。彼らは国に要求するために、まず日本国憲法を学びました。重監房廃止の1947年は、日本国憲法が施行された年でもあります。

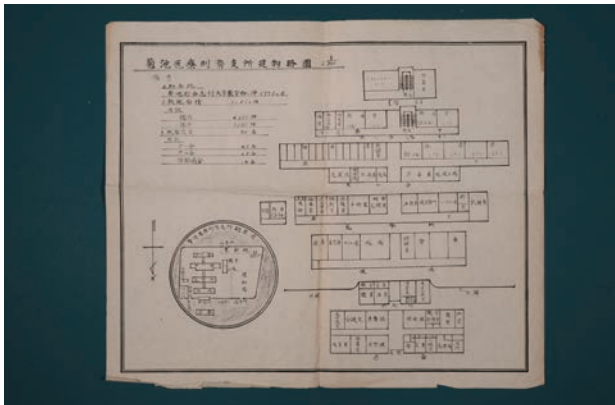
「1.16事件」「警察官刺傷事件」「菊池事件」は重監房廃止後に起きました。ハンセン病患者の犯罪者は、らい予防法により一般の留置所や刑務所に入ることはありませんでした。重監房に代わって1953年3月、熊本県にハンセン病患者専用の医療刑務支所が設置された後は、刑事裁判を経てハンセン病患者が送られます。この裁判は「特別法廷」で行われ、日本国憲法に則ったように装われていましたが、実際は憲法違反でした。「特別法廷」については2016年に最高裁長官が「法の下での平等に反し違憲の疑いがある」と謝罪、2020年には憲法違反だとの熊本地裁判決も確定しています。



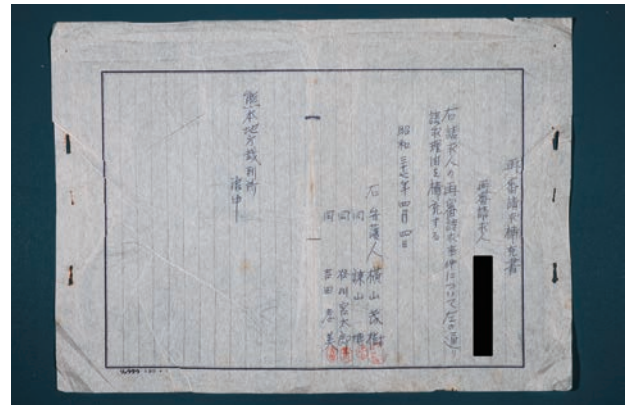
重監房資料館2024年度企画展
重監房廃止。しかし、その先は？
2024 7.17^{WED} ~ 12.22^{SUN}
開館時間：9:30-16:30(最終入館は16:00まで)
※11月15日からは10:00開館-16:00閉館
休館日：月曜日
(月曜が祝日の場合は月曜開館、翌日休館)
8月13日・9月17日・9月24日・10月15日・11月5日は休館
入場料：無料
重監房資料館
〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533
TEL: 0279-88-1550 FAX: 0279-88-1553
http://www.nhdm.jp/sjpm/

2001年「ハンセン病国家賠償請求訴訟」判決・2019年「ハンセン病家族訴訟」判決ともに、当事者を中心とした原告が勝訴しました。しかし、ハンセン病への偏見差別は現存し、人権問題は依然として解決していません。基本的人権はだれもが持ち得る権利なのになぜでしょうか？

重監房廃止後の経緯をみていくと、私たち国民は国家権力が憲法を尊重しているか監視するのを怠り、権力の乱用を止めることができなかったと言わざるを得ません。なおかつ、現在も無意識のままに偏見差別を助長し続けている可能性があります。私たちの“何もしない”という行為によって、重監房は戦後も形を変えて存続されたのです。



菊池医療刑務支所建物略図
国立療養所菊池恵楓園歴史資料館所蔵



菊池事件 再審請求補充書
国立療養所菊池恵楓園入所者自治会所蔵

会場では、今まで菊池恵楓園から出ていないとされている資料を展示（期間中展示替あり）しております。また、志村康氏（菊池恵楓園入所者自治会会長）、太田明氏（菊池恵楓園入所者自治会副会長）のインタビューを随時上映しております。菊池恵楓園に隣接していた「菊池医療刑務支所」や「菊池事件」についての他、2024年4月時点で最も伝えたいメッセージを収録しています。

8月8日（木）、9月18日（水）、10月5日（土）、11月24日（日）、12月20日（金）にはギャラリートーク（詳細は当館ホームページの新着情報をご参照ください）を予定しております。本展が、今も続く「特別病室」問題・ハンセン病問題を自分事として捉えていただく思惟の場になればと願っております。皆様のご来館をお待ちしております。

（鎌田 麻希）

重監房資料館では、人権啓発イベントへの講師派遣、啓発DVD・パネルの貸出を承ります。

重監房資料館には、「歴史継承、普及啓発、再現・展示、情報発信、管理」の5つの機能がありますが、ここで「調査研究の成果を一般に提供し、人権学習の支援を行う」普及啓発機能の実際についてご紹介します。

資料館の「人権学習の支援」には大きく二つがあり、
① 啓発パネルおよび啓発DVDなどの啓発ツールの貸出

② 学校や自治体、各種団体（企業や市民団体）が開催する学習会・講演会、フォーラムへの講師派遣になります。

啓発パネルには、「特別病室」および重監房資料館に関して紹介する解説パネル、国立療養所13園に存在した「監禁室」に関する解説パネルがあり、今年度から写真家・黒崎彰さん撮影の故・苮雄二さんをはじめとする重監房資料館の設立に貢献した方々（「群像」）の

写真パネルが加わりました。

啓発DVDのレンタルは、重監房資料館製作の「遺族ふたり」シリーズを中心に行っています。学芸員レポート1「患者の子と呼ばれて」（37分）、学芸員レポート2.5「仙太郎おじさん！貴方は確かにそこにいた（増補編）」（60分）、学芸員レポート3「無癩県運動をたどる」（50分30秒）です。そのほか資料館設立の経緯を短編に収めた「重監房資料館への道」（12分）があります。

学習会・講演会への講師依頼については、対象となる修学年齢や研修目途にあわせたオーダーメイドで対応を行っています。オンラインによる講師派遣も可能です。

ハンセン病問題について初めて学習するグループ、より深く学びたいというグループの要望にも個別にお応えしていますし、もう少し広く我が国の人権課題の

全般についての話題提供や憲法学習の進度をふまえて基本的な人権の尊重や「戦争と平和」についてお話しすることもできます。もちろん「国立のハンセン病資料館」である重監房資料館の設立経緯や重監房跡の発掘調査、そこから広げてハンセン病療養所における歴史的建造物や史跡の保全と活用に関する話題も提供できます。さらには、ハンセン病回復者や遺族に焦点をあてて人間の尊厳や名誉回復とは何か、ご一緒に考えることもできます。

講師の派遣形態も、いわゆる講演会の講師のみならず、シンポジウムの司会（写真）やパネラーとしての

登壇、車座での質疑応答や討論に重きをおくあり方、啓発DVD上映に組み合わせての講演と解説、あるいは啓発パネルの解説等、会場の大小を問わず、依頼者の希望に添えるようにフレキシブルに対応いたします。講師派遣にかかる費用は、原則的に重監房資料館が「普及啓発機能」の実践として負担をいたします。

ハンセン病問題に関して学びを深めたいとご希望される皆様。是非、上記した啓発ツール貸出と講師派遣サービスをご利用ください。まずは重監房資料館（電話0279-88-1550）まで、お問い合わせ、ご相談ください。（黒尾 和久）



「市民・人権フォーラム 2023 ～ハンセン病患者遺族の『想い』に触れて～」
(2023年8月11日：東京都東村山市中央公民館ホール)

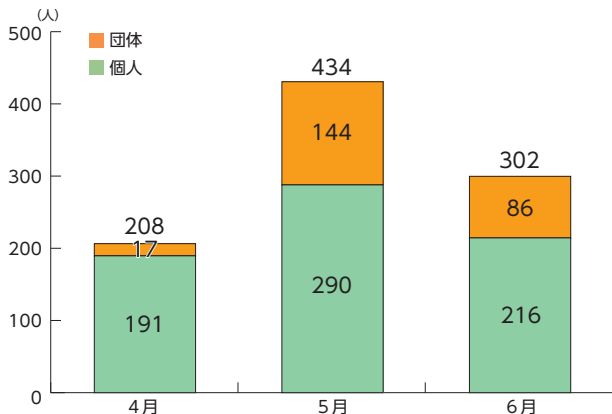
写真家黒崎彰氏作品譲渡、購入報告



線香の煙と重監房跡の碑

2020年度企画展「重監房跡を掘る☆撮る～黒崎彰写真展～」で展示をしました写真家黒崎彰氏の写真作品36点を、2024年1月末に、黒崎彰氏より譲渡、購入を致しました。長くハンセン病療養所、入所者に接し、重監房資料館設置に立会い、撮影し続けた、現代のハンセン病記録の唯一無二としての存在である黒崎彰氏の作品の収蔵は、重監房資料館の様々な活動を、より豊かな充実したものに変えていく「宝物」となります。今後も、当館では、収蔵資料として相応しい資料があれば、積極的に入手していきたい、と考えております。（香川 進司）

2024 年度来館者統計



2024 年度入館者数

延べ	944 人
1 日平均	12.1 人
開館以来延べ	52,596 人

ホームページアクセス数

2024 年度	8,935 回
開館以来延べ	448,334 回

お知らせ

■2024年度ウォーキングツアー開催について

本年度も、ウォーキング・ツアー「初めてのハンセン病史-もうひとつの草津温泉」を開催します。ボランティアガイドの案内で、草津町から重監房資料館までのハンセン病にまつわる史跡を徒歩でたどり、重監房跡や楽泉園社会交流会館、資料館などを見学します。

(主催：重監房資料館 共催：栗生楽泉園自治会、栗生楽泉園 後援：群馬県、草津町)

- ・開催日：9/21(土)、9/28(土)、10/12(土)
- ・定員：8名(先着順) 5時間程度のハイキング可能な体力があること。小雨決行。

ご予約、問い合わせは、当館まで電話でお願い致します。(電話番号0279-88-1550)

お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)

◎患者さん方の声が展示や映像でよくわかりました。語ってくださっていることをありがたく思い、同時に自分の「聞く」姿勢が問われると思いました。職員の方々はどのような思いで働いていたのか、患者さんたちにどう寄り添ったのか、抵抗しなかったのか、というあたりが気になりました。

(東京都、23歳・女、学生)

◎歴史の本で、神に起請文を書くとき、白癩、黒癩という文言が出てくるほど、歴史的に根深い問題を抱えていると常々思っていました。テレビでドキュメンタリーを見て、この資料館を知りました。得るものが多かったです。ありがとうございました。

(埼玉県、71歳・男)

◎大学で歴史を専攻、高校まで歴史を勉強していたにも関わらず、ハンセン病のことは名前程度しか取り上げない。重監房や隔離という悲しい過去に驚いた。まるで犯罪を犯した人ようだ。なぜここまでひどいことをする必要があったのか。無知は差別、人間の心をここまでも変えてしまうものなのかと驚いた。とても勉強になった。中学生、高校生に来てほしいです。

(東京都、24歳・女)

◎事実に基づかない偏見(思い込み)とそこから引き起こされる不安感、そして無知から「差別」が生まれることを改めて感じました。何かについて自分の考えを述べたり行動するとき「それは事実か!」「思い込みが入っていないか」を自分に問い、意識しながら、差別に加担しないように生きていきたいと思えます。

(東京都、29歳・女、会社員)

◎“ハンセン病”という名前は聞いたことはあったが、このような歴史があったことは知らなかったもので、とても勉強になりました。今もなお、施設で生活している人がいるという驚きとともに、このような歴史背景があるということを知らない若い世代の人はたくさんいると思うので、どんどん発信していただきたいと思えました。今の時代は、情報を正しく選択することが大切なので、間違った情報を鵜呑みにしないようにすることで、この負の歴史の被害に会われた方々やご家族の思いを二度と繰り返さないようにしていくことが、我々にできることかなと思います。

(京都府、25歳・男、特別支援学校教員)

ご利用案内・アクセス

■開館時間■ 4/26-11/14 (通常期)：9：30～16：30 (団体は要予約)

11/15-4/25 (冬期)：10：00～16：00 (団体は要予約)

■休館日■ 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

■入館料■ 無料

■交通案内■ 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約 25 分

草津温泉バスターミナル下車 タクシー約 7 分、徒歩約 45 分

車利用の場合 渋川伊香保 IC より約 2 時間 10 分 上田菅平 IC より約 1 時間 50 分

(草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先 200m の末舗装路をお入りください。)

重監房資料館「くりう」第 25 号【季刊】

発行日：2024 (令和 6) 年 7 月 17 日/企画・編集・発行 重監房資料館/ URL：https://www.nhdm.jp/sjpm/
〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL：0279-88-1550 FAX：0279-88-1553